

第3回現地調査について

社叢学会理事
糸谷 正俊

1月に実施した第2回現地調査に引き続き、復興を手がける社叢の選定と、地元での協力体制構築のため、再度、藺田稔副理事長、糸谷正俊理事を平成24年2月13日（月）～15日（水）の3日間、岩手県・宮城県・福島県に派遣した。以下は、調査の概要である。

1. 調査スケジュール

2月13日	宮城県神社庁表敬訪問・打合せ
	仙台市等復興計画作成会社訪問
	狐塚（仙台市）及び富主姫神社（名取市）現地視察
2月14日	山祇神社（女川町）関係ヒアリングおよび山祇神社現地視察
	女川町社叢、牡鹿半島（石巻市）社叢調査
2月15日	元荒浜北地区自治会長の早坂氏等と狐塚について面談
	八重垣神社（山元町）藤波祥子宮司と面談
	竹駒神社表敬訪問・打合せ

2. 参加者

藺田 稔・糸谷正俊・近藤寛（現地協力者）

3. 調査報告

〈宮城県神社庁〉

- ・山元町八重垣神社藤波宮司打合せ（1/18）、神社本庁打合せ（1/31）の結果を報告、了承された
- ・3/14 実施の復興作業見学会・報告会の開催について報告し、協力を依頼、これも了承された
- ・八重垣神社について、①仮社殿の再建支援、②日本財団鎮守の森再生、③社叢学会による残された社叢の保全育成、の3点セットモデルをPRしたいという神社本庁の意向を報告、理解を得た

〈復興作業見学会・報告会（3/14 実施）について〉

- ・仙台市等復興計画作成会社（ランドブレン）プランナーへの協力依頼
- ・藤波宮司（八重垣神社）、石垣総務部長（竹駒神社）に説明と相談。協力を了承された

〈狐塚について〉

- ・現地視察
- ・1月に確認したクロマツの枯死を再確認、これを伐採するとかなり景観が変化することを危惧
- ・狐塚近くの道路で花束を置いて線香をたて、お参りするグループに話をうかがうと、ちょうど1年前に交通事故で死亡された方の供養だった。この近くは見通しが良いのに交通事故が多いと聞いていたが、当事者に遭遇して不思議な感じがした

- ・周辺の復興計画についてランドブレイクプランナーと意見交換
- ・荒浜地区住民が入居している仮設住宅の位置図を入手
- ・元荒浜北地区自治会長の早坂氏佐藤氏と面談
- ・狐塚については所有者の意向が一番とのことで、所有者佐藤トメ子さんに電話。相続等の問題があり、過去のことは語れるが、将来については不明とのことで、連絡先を聞きし、後日の面談を依頼することとした
- ・佐藤氏の紹介で、元の所有者佐藤清孝氏の次男佐藤孝男氏と面談。狐塚は残すべきだが、相続があり今は当事者でないとのこと（当主と長男は津浪で死去）
- ・佐藤孝男氏によれば狐塚をめぐる不思議な出来事が多く、祟りもあるため、慎重に行動すべき助言をいただく
- ・復興道路のかさ上げで、狐塚への影響が心配とのことだった

〈富主姫神社（名取市）について〉

- ・現地視察：様子は変わらないが、記念植栽（サクラ）や花壇植栽の管理が不十分で今後の心配。相変わらず訪問者は多い



富主姫神社

〈山祇神社（女川町）について〉

- ・現地視察
- ・周辺の復興状況は遅れている。今年中に計画策定とか
- ・復興計画によっては道路がかさ上げ、拡張されるなど、神社敷地への影響が大きくなる可能性がある
- ・鳥居は修理済み。石段・手すり・電灯等の応急修理は氏子が行っていたが、その場しのぎのレベル
- ・社殿はおおむね無事だが、基礎石が傾いている
- ・社殿前の広場はサクラ類の記念植栽が3本あり、記念植栽の余地は少ない
- ・社殿周辺も急傾斜地で、既存木が多く、下刈り、不適樹木伐採などの整理が必要
- ・土留め工事は、いたるところに崩れがありかなり本格的なものが要求される
- ・スギの大木がシンボル、ヤブツバキが元気、ケヤキは数本ある。かなり以前に枯死しているケヤキの大木もある
- ・植栽したモミジ類、カヤは津浪で流された。参道階段横にサカキの植栽多い
- ・鳥居横に記念植樹できるスペースがある
- ・山祇神社氏子4名と面談、社叢よりも石段横の土留め工事を依頼されたが、関係者と相談する旨、答えた

〈石巻市牡鹿半島社叢調査〉

- ・集落ごとの社叢の予備調査として、十八成浜、白山神社、小淵浜五十鈴神社、大原浜熊野宮を視察
- ・大原浜熊野宮およびその周辺の寺等の社叢については本格的な調査が必要
- ・ケヤキの大木、スギ、マツの高木のほか、海洋性気候の影響で常緑広葉樹（ヤブツバキ等）も多い
- ・神社周辺の集落は津浪で壊滅状況だが、いずれの神社も被害はさほどでなく、社殿等の修理はそれなりに進んでいた